

第1回能代・山本地域医療構想調整会議 議事録要旨

- 1 日 時 令和3年8月19日(木) 午後6時から午後8時まで
- 2 場 所 オンライン会議
- 3 出席者
- 4 議事等

(1) 医療法の一部改正の概要について

① 医師の働き方改革

【事務局】

(資料により説明)

【福祉環境部長】

3病院の委員から、病院の実態を踏まえてご意見いただきたいと思う。

【能代厚生医療センター院長】

国のロードマップに則り、1年前から勤務時間の把握をしてきた。出勤時と退勤時を管理し、時間外労働の把握をしてきた。この間、集計を行ったところ、960時間を超える医師が8人いた。8人の中で、現在在籍している3人の分析をしており、自己研鑽や病院の業務などの時間を調べている。私の考えでは、恐らくB水準の医師はいないか、いても1から2人くらいかと思っており、今は詰め作業をしている。

【JCHO秋田病院長】

当院では、出退勤の時間ではなく、時間外労働の労働時間を見ており、960時間を超える医師はいない。医師には、時間外労働があった場合は、きちんと申し出ることを伝えている。

病院の取組としては、効率の良い仕事を心がけており、基本的に整形外科が多いので、手術時間の延長を防ぐために、他の職種の協力を得ながら、入退出の時間を短くしたりするなどの時間短縮に取り組んでいる。

ただし、当日直が多く、連休があると6日と増える。外部からの医師の応援なども活用しながら解消できるよう努めている。

【能代山本医師会病院長】

960時間を超える医師はいない。当直の方も大丈夫。クリアしている。

【能代市山本郡医師会長】

病院に勤めていた頃、整形外科は後遺症などの書類作成が多く、日曜日も出勤して作成していた。そういう業務も時間外労働に入るのか。

【事務局】

診療に付帯することなので、時間外労働に入ると思われる。

【能代市山本郡医師会長】

通常の診療なども大変だが、付帯する業務をいかに効率よく行うかが大事だと思う。

【福祉環境部長】

工夫されている病院があれば、発言をお願いしたい。

【能代厚生医療センター院長】

どこの病院でも同じかと思うが、今は医療クラークが診断書の作成を分担しており、タスクシフトが進んでいる。

【能代山本医師会病院長】

ハートフルネットの活用によって、紹介状を作成する手間が大幅に削減された。

【JCHO秋田病院長】

楊先生の質問は適切である。当院でも医療クラークを活用しており、労力は大幅に減少した。医師によっては、書類を作成したい方もいるが、整形外科は、労災保険や介護保険の書類が多いので、医療クラークをうまく活用している。

(1) 医療法の一部改正の概要について

② 新興感染症対策

【事務局】

(資料により説明)

【福祉環境部長】

一般診療との両立に当たっての課題など、ご意見をお願いしたい。

【能代厚生医療センター院長】

地域医療構想とコロナ対応を着実に進めていくという国の指針に従って進めていく。コロナ対応については、今、感染が爆発していて、対応しつつ、医療体制を整えることに忙殺されている。今は、コロナ対策に万全を期すことが第一である。

【JCHO秋田病院長】

感染症に係る病床を確保することと、地域医療構想で急性期病床を減らすこと、国の方針がそうであれば、どこか譲るところがないと難しいと思う。地域医療構想では、急性期病床を回復期病床などへ転換することを勧めているが、地域包括ケア病床への転換への準備期間は半年かかると言われている。2ヶ月や3ヶ月に短縮した方がいい。

今、重点医療機関としてコロナ患者を診ているが、治療に当たる医師が異動や退職でいなくなったとき、感染症を診療できる医師を派遣していただき、地域の感染症を診るのかということも考えて欲しい。病床だけあればいいではなく、医師確保まで、県としても協力して欲しい。

【能代山本医師会病院長】

地域医療構想とコロナ対策において、病床を減らすことがいいことなのか。能代厚生医療センターが病床を減らし、当院も地域医療構想に則った方向で機能変更してきている。今後についてどう進める予定なのか。

【医務薬事課長】

地域医療構想と感染症の対応だが、大きな考え方として、地域医療構想は、将来の医療需要を見据えて、大きな流れの中で考えるものであって、一方、感染症対策は、もっと短いスパンで医療需要に対応するものと考えている。次期医療計画の策定に向け、それぞれ議論を進めていきたい。

【能代山本医師会病院長】

能代厚生医療センターが1病棟削減して大変驚いた。大きな流れとしては地域医療構想を進めていくが、今はコロナ対策が優先ということで理解している。

【能代病院長】

コロナ患者を診ておらず、一般の感染対策しか行っていない。当院のような民間の中小病院では、対応が難しいし、職員からも同意が得られない。抗原検査キットもあるが、まだ未使用となっている。疑い患者がいればとも思うが、発熱患者も院内にはいない。

【森岳温泉病院長】

新興感染症について、今のコロナの状況は、秋田県では徐々に感染者が増えてきているが、他県では急激に増えて、例えば、大阪のように専門病院を作らないといけなとか、病棟単位で対策をしないといけないところもある。

平時から、急激に増加した場合に備えて準備しないといけない。例えば、平時から陰圧装置への補助などの制度も必要であるし、急性期後の患者を受け入れる後方支援病院も整備していかないといけない。

当院では、発熱患者への検査は、プレハブを建てて対応しており、ワクチンについては、連携医療機関として積極的に行っている。今後、後方支援ということでリハビリが必要な場合は、当院でも対応しないといけないと考えている。

【能代市山本郡医師会長】

医師会としては、初期対応として、去年の12月から、唾液によるPCR検査の体制を作った。地域の中の診療検査医療機関は23、稼働は10くらい、コロナの検査では

有用な体制である。唾液の検査は、医療機関としても簡便で感度も高く、安心して検査できるので、能代病院も、唾液検査に協力していただければありがたい。

島田先生からご意見のあった急性期から回復期、後方支援のあり方についても、大変重要なことなので、その体制についても話し合っていきたい。

【福祉環境部長】

この地域は、医師会の先生方が非常に協力的で助かっている。

【能代厚生医療センター院長】

島田先生、楊先生から後方支援病院の話があった。秋田市内の施設から患者を引き受けて、国の指針に基づいて入院、退院となったとき、紹介元の施設から受け入れできないと言われ、大変困った事例があった。受け入れの後、退院後の後方支援として、地域でリハビリをしながら待つということが大事かと思った。

【島田病院（事務長）】

今のところ、コロナ対応できる状況ではない。

【能代市・山本郡歯科医師会長】

歯科では、コロナへの協力は難しい状況である。コロナワクチンの打ち手が足りない場合に備え、6名の歯科医師が手上げしており、講習に参加した経緯がある。

今後、どうしても必要な場合には、再度開催される講習を受けて、協力できるようにしたいと考えている。

【特別養護老人ホーム「もりたけ」施設長】

施設としては、基本的な感染対策を徹底する。入居型の利用者は、室内にいるので基本的に大丈夫と考えているが、問題は職員なので、職員の感染対策を徹底している。

併せて、感染状況を見ながら、面会の制限も実施しているが、いつ再開できるかわからない中で、利用者やご家族から不安・不満が出てきている

施設内で感染が発生したとき、適切な感染対策ができるか不安である。全部個室なので隔離は可能だが、不安はあるので、医療機関からも指導いただければと思う。

【福祉環境部長】

施設内でのクラスター発生時の不安はあると思うが、皆さんご存知のとおり、ACOMATチームが、感染制御に入ることができる。島田先生はじめ、医師会でも活動しているので、日頃から連携を図る必要があると思う。

自治体の立場から何か意見があれば伺いたい。

【能代市】

感染症対策について、ワクチン接種は入っていくのか。

【医務薬事課長】

この後、計画の作成指針が示される。今のところは、まだ分からない。

(2) 地域医療構想の推進について

【事務局】

(二次医療圏毎の医療提供体制の状況、資料により説明)

【全国健康保険協会秋田支部業務部長】

全体的には県外への流出が抑えられている一方で、疾病別に見ると、乳がん、急性心筋梗塞については、秋田周辺への流出が見られる。乳がんが24%から40%、急性心筋梗塞は、15%から30%に増加している。肝がんについては、県外への流出が2%から25%に増加している。レセプト件数は、がん全体については、6,961件から8,819件と約27%増加している。その中でも、肺がんは519件、大腸がんは821件増加している。

また、心疾患全体のレセプト件数は、14,596件から16,288件と約12%増加している。その中でも、不整脈が621件、心不全が880件増加している。

【福祉環境部長】

患者の減少下においての今後の診療体制の確保について、ご意見いただきたい。

【能代厚生医療センター院長】

特にない。

【能代山本医師会病院長】

乳がんの流出が増えている原因は何か。

【全国健康保険協会秋田支部業務部長】

詳しい原因は調査中、今のところ把握できていない。

【能代山本医師会病院長】

JCHOの外科が1人しかいなくなったので、がんの体制が弱くなったのかなと、危惧している。

【能代病院長】

この地域の患者数が減るのは、県の人口減少率は日本一なので、当然のことで仕方がない。今後は、患者数だけでなく、将来、医療従事者の確保も難しくなる。職員も高齢化しているし、世代交代がうまくいかない。縮小せざるを得ないが、検討はまだだが、いずれ考えないといけないと思っている。

【森岳温泉病院長】

心疾患について、平成30年度の資料を見ると、予定PCIを始めた頃であると思う。その後、医師が増えている。大変心強く思っている。心筋梗塞は、時間との戦いなので、地域内で実施すべきものである。

また、PCIについては、盛岡や青森では2施設で実施しているものを、秋田市では6施設で実施しており、分散傾向にあった。この状況に対し、市内でのPCIを縮小して、緊急を要さないアブレーションを実施する事業を実施した。疾患によっては、圏域から流出しても問題ないものもあるし、心筋梗塞のように地域で完結すべきものもある。

【JCHO秋田病院長】

患者の流出入に係る資料を出した狙いとして、地域で対応できる疾患を増やし、流出をさせないという意図なのか。例えば、乳がんの流出が増えている。患者の方で、手術だけではなく、形成術までを望むのであれば、形成まで対応できる病院を選ぶことになるし、それに尽きると思われる。それをこの地域でできるように各病院が頑張るという視点で考えればいいのか、県としての考え方を教えていただきたい。

【事務局】

2次医療圏でどれだけ医療提供ができていくのか、また、できないものはどうしていくのか、過去と現状を比較するための材料。流出が多いものとか、患者の傾向があるのであれば、検討する必要があると考えている。地域の医療体制の検討をするに当たっての材料として、出したものである。

【能代厚生医療センター院長】

私なりに考えてみたが、市民がどう考えているかも大事だと思う。

【医務薬事課長】

医療を受ける立場の考え方も大事とは思いますが、それも検討したいと思うが、うまく意見を集約する方法としては、今は浮かばない状況である。

今回の資料は、情報共有を図るのが意図で、情報提供・情報共有をもって協議できればという意図である。

【能代市山本郡医師会長】

乳がんはこの地域で十分対応できると思うが、結果流出している。乳がんは若い女性が多く、都市部の医療機関に行けば良いとか意識の問題、開業医の意識の中で地域の中で完結しないといけないという問題意識がなければ、意識を持つようにしないといけないと思う。

(3) 将来を見据えた能代・山本地域の医療提供体制について

①能代循環器・呼吸器内科における病床機能再編支援事業の活用について

【事務局】

(病床機能再編支援事業の趣旨、資料に基づき説明)

【能代循環器・呼吸器内科院長】

単独支援再編計画を出させていただいた。将来の患者数減少を見込み、ベッドを削減する。当院の入院患者数も減少傾向であり、人口推計や患者推計からも、今後も回復する見込みもないと考えている。

入院件数は、平成30年は11件、資料に記載のとおりとなっているが、いずれも人工ペースメーカーの植え込み、電池交換などとなっている。手術症例も減ってきている。状況としてはこのとおりなので、無床化したいと考えている。

【能代市山本郡医師会長】

さみしい思いということが感想。今後、高齢者の肺炎が増えていくと思うが、呼吸器の肺炎の患者需要についてどう思うか。

【能代循環器・呼吸器内科院長】

肺炎の入院は、能代厚生医療センターなどの病院にお願いしており、当院では入院していない。6床しかないし、肺炎に対する充実した治療や重症化する場合にあっては、診療所では満足な治療ができないというのが現状である。

(3) 将来を見据えた能代・山本地域の医療提供体制について

②森岳温泉病院の建替の見通しと病床機能再編支援事業の活用について

【森岳温泉病院長】

当院では、回復期リハビリテーション病棟の施設基準を高め、さらに医療療養病床の一部を回復期リハ病床に転換するためには、看護師等をより多く配置しなければならないことなどの理由から、今後、病棟施設基準変更・減床、および病院新築移転・減床の二段階の計画を策定中である。

看護師の配置基準は、療養病棟入院料2の20対1に比して回復期リハ病棟入院料3は15対1、回復期リハ病棟入院料2は13対1と、より多くの看護師を配置することが必要であり、同じ看護師数で回復期リハ病棟の施設基準を3から2に変更し、さらに医療療養病床の一部を回復期病床に転換するためには減床する必要がある。さらに、回復期リハ病床を増床するためには、大幅な改築が必要となる。また、現在の療養病棟入院料2から、より高度な医療体制の療養病棟入院料1を目指す必要があると考えている。

地域に適した回復期リハビリテーション医療・療養医療を提供する考えから、二段階の病床施設基準変更・減床および改築移転を計画している。

【福祉環境部長】

回復期の機能充実については、この地域にとって非常にありがたいと思っている。

【能代厚生医療センター院長】

回復期の機能充実に期待をしている。

【JCHO秋田病院長】

地域医療構想に資する案である。

【能代山本医師会病院長】

頑張っていたきたいと思う。

【能代病院長】

医療区分1と2の考え方は、大正の頃からあり、おかしいと思う。このまま変更なく行くのに疑問を感じている。国や県は変更する予定はないのか。

【医務薬事課長】

そういった問題意識があることを初めて知った。医療区分の変更について、持ち合わせている情報はない。

【能代市山本郡医師会長】

森岳温泉病院については、順調に進んでいくことを願っている。スタッフの獲得について、医師、看護師などの医療従事者の確保は問題ないか。

【森岳温泉病院長】

そのとおりで看護師の確保が課題。医師やりハビリ職は、基準以上の体制となっている。看護師は若干辞める人もいるが、今の体制を続けていくという前提で計画を作ったものである。

将来的に療養病棟入院基本料2がなくなることも可能性としてはあり得るので、回復期と療養病床の機能を高める必要があると考えている。看護師が増える見込みが少ないので、このような形がよいと考えた。

(3) 将来を見据えた能代・山本地域の医療提供体制について

③ JCHO秋田病院の具体的対応方針の再検証結果について

【事務局】

(具体的対応方針の再検証の趣旨、資料に基づき説明)

【JCHO秋田病院長】

当院として段階的に病床を減らすことを考えていた。昨年4月から地域包括ケア病床を20床に増やし、急性期病床を143床としている。新型コロナウイルス感染症の

感染拡大を受け、昨年12月から、重点医療機関となっており、1病棟55床をコロナ専用病棟とし、急性期病床は108床で運用している。重点医療機関の前は、稼働率82%であったが、今は90%以上の稼働率で、入院の在日数もコロナ前は20～21日であったが、今は16～17日であり、7対1病棟のような運用をしている。重点医療機関となって考えたことは、引き続き、外科、内科医師の補充に力を入れていくが、急性期病床108床で運用していくことも可能ではないかと思っている。

来年度から、1病棟55床を地域包括ケア病床に転換しようと思っているが、準備期間が半年となっているので、重点医療機関の間は、その準備ができない。

現状、私たちが考えていることは以上である。

【福祉環境部長】

この地域でも、急性期病床が多く、回復期病床が少ないという現状に対応した考え方かと思う。

【能代市山本郡医師会長】

がんや救急が少ないとあるが、地域では、JCHOの整形や内科は通院の患者が多く、地域に必要な医療機関である。この地域で、重要な病院として頑張っていたかと思う。

【JCHO秋田病院長】

能代厚生からもう少し入院させたい患者、老健施設も持っているので、重点医療機関の前までやっていた。地域包括ケア病棟にするということは、そういう患者にも対応できるということである。

【福祉環境部長】

後方支援病院としても、地域包括ケア病床で対応できるとの話であった。

国の方から指摘されている救急医療について、3病院が競合しているとの内容であるが、病院間での役割分担について、ご意見等お願いしたい。

【能代厚生医療センター院長】

救急の役割分担については、平成5年の資料に残っている。

役割分担がうたわれているが、それぞれがマンパワーの欲しいところで、協力しあってきた。今の体制は、一定の効果を得ているのではないかと思っている。

【能代山本医師会病院長】

救急医療については、能代厚生、JCHOのお世話になっている。救急医療以外でも、能代厚生やJCHOからの紹介患者が増えている。連携が取れていると感じている。療養病床があり、地域包括ケア病床では受け入れできない患者も受入できるので、役割分担はできてきていると思っている。

【森岳温泉病院長】

公立・公的病院等の公表は、私、県医師会としても、いかがなものかという考えがある。職員、住民が非常に不安を覚えた。各市町村からも国に対して意見があったと記憶している。この地域については、自主的に前向きに地域医療構想なども踏まえた方策を考えており、地域としては頑張っていると感じている。

三位一体の推進、働き方改革などの関係でいくと、将来的には、難しいところもあると思うが、地域医療連携推進法人といったものも考えなければならないと思っている。

【能代市山本郡医師会長】

この地域は、3病院と医師会、開業医、自治体、連携がよいとうまくいっていると思う。コロナにおいても、非常に積極的にやっていただいている。ワクチン接種も順調に進んでいる。

今後も一丸となって対処していきたい。